

# 平成24年第6回庄原市議会定例会

## 一般質問通告者 及び 質問事項

12月10日～12月12日

### 質問順位

- |         |          |
|---------|----------|
| 1. 横路政之 | 2. 坂本義明  |
| 3. 中原巧  | 4. 徳永泰臣  |
| 5. 谷口隆明 | 6. 宇江田豊彦 |
| 7. 小谷鶴義 | 8. 林高正   |
| 9. 福山権二 |          |

庄原市議会

# 平成24年12月定例会 一般質問

順位	質問議員	質問項目	ページ
1	横路政之	子ども・子育て関連3法の成立を受けて	1
		骨髄ドナーへの支援について	2
		初級園芸福祉士の育成について	3
		心の健康対策推進について	3
2	坂本義明	庄原市における竹林整備について	4
3	中原 巧	T P P への本市としての取り組みについて	5
4	徳永泰臣	地域活性化対策について	6
5	谷口隆明	新年度予算編成方針と大型事業について	7
		木質バイオマス利活用事業について	8
		住宅リフォーム助成制度の継続を	8
6	宇江田豊彦	小中学校における超過勤務の実態について	9
		出産祝い金について	11
7	小谷鶴義	平成25年度予算編成について	12
		グリーンケミカル(株)補助金不正受給事件の解決と、新スポンサー企業の見通しについて	12
		庄原市超高速通信網整備計画について	12
		一般競争入札の結果について	13
		全国和牛能力共進会の結果について	13
		選挙開票事務について	13
8	林 高正	庄原市超高速情報通信網整備計画について	14
		庄原市防災行政無線整備計画について	15

順位	質問議員	質問項目	ページ
9	福山権二	指定管理者制度について	16
		各種検討委員会について	17
		地籍調査について	17

※一般質問

12月10日（月）横路政之・坂本義明・中原巧

12月11日（火）徳永泰臣・谷口隆明・宇江田豊彦

12月12日（水）小谷鶴義・林高正・福山権二

順位	1	質問者	横路 政之	
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者
1. 子ども・子育て関連3法の成立を受けて	<p>(1) 国においては、平成25年4月に子ども・子育て会議が設置される。そして、子ども・子育て支援法第77条では、市区町村において地方版「子ども・子育て会議」を設置することを努力義務としているが、子育て家庭のニーズを把握して施策を行う仕組みは、国のみならず地方においても極めて重要である。本市においても、子育て家庭のニーズをより一層反映できるよう、来年度から子育て当事者等をメンバーとする組織を新たに設置することが必要だと思うが、考えを伺う。</p> <p>(2) 今回の子ども・子育て支援法の制定により、すべての自治体が事業計画を策定しなければならないこととなっており、その計画期間は5年間である。この事業計画策定に当たっては、国の基本指針に基づき、子育て家庭の状況及びニーズをしっかりと調査し、把握することが求められている。平成27年度からの本格施行に向け、事業計画を平成26年度半ばまでに策定するためには、平成25年度予算において、事業計画策定に向けたニーズ調査のための経費を計上することが必要だと思うが、考えを伺う。</p>			市長

順位	1	質問者	横路 政之	
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者
2. 骨髄ドナーへの支援について	<p>(1) ドナーへの費用助成をすることにより、ドナーの善意を生かして骨髄提供に至るケースが増え、より多くの命が救われることになると思う。現在、新潟県加茂市や島根県浜田市などでは、独自に「ドナー助成制度」を設けている。本市も命のボランティアを支援する「ドナー助成制度」を立ち上げるべきではないかと思うが、考えを伺う。</p> <p>(2) ドナーの負担というのは、経済的な負担だけではない。例えば、子育てや介護をされている方々は、なかなか都合をつけることができないため、ドナーになれないという場合もある。子育てや介護でドナーになりたくてもなれないということがないよう、本市の介護や子育て支援施策において、ドナーに対して最大限配慮すべきではないかと思うが、考えを伺う。</p> <p>(3) 造血幹細胞移植を推進し、患者により良い治療を提供していくためには、何よりも国民の理解が必要である。造血幹細胞移植推進法第10条では、国とともに地方公共団体も造血幹細胞移植に対する理解を深めるための必要な施策を講ずるものとして定めている。本市としてどのように取り組むつもりなのか、考えを伺う。</p>			市長

順位	1	質問者	横路 政之	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
3. 初級園芸福祉士の育成について	<p>「園芸福祉」の活動とは、花や野菜を育て、自然に触れ合い、みんなで幸せになろうということであると言われている。このことは、高齢者福祉の分野から環境保全や地域・まちづくり、さらに、情操教育や生涯学習、障害者福祉まで、幅広い分野での活用が考えられる。その上、それぞれの家庭だけではなく、近隣や地域社会の中で、人々と交流しながら楽しい時間を過ごし、それを体感できる場所や空間を作り上げていく活動である。</p> <p>三次市においては、平成22年度から、初級園芸福祉士養成講座の開催や受講料の助成を行い、大きな成果が出ている。</p> <p>高齢社会を確実に迎える本市において、生きがいと健康づくりのため、こうした取り組みは必要であると思うが、考えを伺う。</p>		市長	
4. 心の健康対策推進について	<p>うつなどの心の病に対する予防啓発の手段として、パソコンや携帯で気軽に自分の心の状態をチェックできる「こころの体温計」というシステムがある。早期発見、早期対策のためにもこのシステムは有効であり、本市もホームページにこのような窓口を設けてはどうかと思うが、考えを伺う。</p>		市長	

順位	2	質問者	坂本 義明	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. 庄原市における竹林整備について	<p>(1) 竹林整備はなかなか進んでいないが、その現状はどうか。また、市としての整備計画及び将来展望について伺う。</p> <p>(2) 竹林を有効な資源として利活用されている市町もあると聞くが、市としては竹の有効活用策を具体的に検討されたのかどうか伺う。</p> <p>(3) 中山間地域という地の利を生かし、竹林整備を行い、観光産業の一つとして着目すべきと思うが、考えを伺う。</p> <p>(4) 竹林整備に関して(株)庄原市農林振興公社での対応は考えられないか。具体的には、竹パウダーによる堆肥づくり、特産品づくりもできると思うが、考え方としてどうか伺う。</p>		市長	

順位	3	質問者	中原 巧
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. TPPへの本市としての取り組みについて	<p>現在、衆議院議員総選挙期間中で、どの政党等も政策にこのTPP問題を大きな柱として取り上げている。選挙の情勢は判断できないが、TPPへの交渉参加に積極的、あるいは前向きな政党が政権を担うことが予想される。また、既に日米両政府間において水面下で協議調整が加速しているとの新聞報道もある。</p> <p>市長は就任以来、本市の基幹産業は農業であると一貫して訴え、様々な施策を展開されてきたが、この協定が締結されると、大半の中小零細農家や企業をはじめ、様々な分野で壊滅的な打撃を被ることは誰もが予想するところであり、上手くこのTPPを利用して富を得たもののみ繁栄する、真にどこかの国のような弱肉強食の社会が形成されようとしている。</p> <p>市長は既に公然と反対を表明され、議会も平成 22 年第 8 回定例会において反対決議をし、意見書を内閣総理大臣等へ送付している。市長は今日まで、この問題に対してどのように反対行動を行い、来る 16 日以降、本市の基幹産業を守り育て、市民の安寧な生活を保障していくため、どのような方策で奮闘されようとしているのか伺う。</p>		市長

順位	4	質問者	徳永 泰臣
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 地域活性化対策について	<p>(1) 平成 19 年度より、自治振興センターがスタートしているが、これまでの評価と今後の課題について伺う。</p> <p>(2) 地域課題解決のためのポイントは人材であり、その中心的役割を担うのが自治振興センターの職員であると考えているが、その人達に期待することは何か伺う。</p> <p>(3) 平成 27 年度から普通交付税が段階的に減額され、市民への行政サービスが低下してくると予想される。それまでに地域力の強化が必要であるが、このことについてどのように考えているか伺う。</p> <p>(4) 地域活性化のためには、地域マネジャーや地域おこし協力隊の役割が大きいと思うが、改めてその導入の必要性について伺う。</p>		市長

順位	5	質問者	谷口 隆明
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 新年度予算編 成方針と大型 事業について	<p>(1) 予算編成の基本方針に、「現行制度に基づき見込み得る年間予算を要求するものとする」とある。骨格予算としないで年間予算にするにしても、義務的経費や継続的な事業予算（実施計画計上事業など）に限るべきだと考える。なぜ、骨格予算としなかったのか、改めて質問する。</p>		市長
	<p>(2) 予算編成要領では、「施設の指定管理料については、管財課から積算の考え方が示される」とあるが、その内容について伺う。</p>		
	<p>(3) 大型で複数年度にわたるような新規事業の予算計上は、慎むべきだと考える。</p> <p>特に、超高速通信網整備事業や防災行政無線事業については、現執行部で確立した方針を次へ引き継ぐにしても、実際の事業実施の内容確定やその予算化は新執行者に委ねるのが、通常ではないか。</p> <p>CATV事業を廃止して情報通信サービスだけの提供ならば、光ケーブル整備より、現在ADSLも不十分な地域から対策をとるのが行政の役割と考える。</p> <p>防災行政無線もその役割を否定はしないが、すべて市単独での財政負担では納得しがたい。新しい執行者で全く違う方針が出る可能性もある。見解を問う。</p>		

順位	5	質問者	谷口 隆明	項目	質問の小項目及び要旨	答弁を 求める者
				2. 木質バイオマス利活用事業について	市長は、国庫補助金の不正受給にまでに至ったこの問題を任期中にどこまで解決し、その政治責任をどう果たす考えか伺う。	市長
				3. 住宅リフォーム助成制度の継続を	市議会への制度創設を求める請願を全会一致の採択によって実現した本制度も、3年間の実施期限を終えようとしている。大きな経済波及効果をもたらしたこの制度は、生きた公金の使い道としてさらに継続すべきだと考えるが、見解を伺う。	市長

順位	6	質問者	宇江田豊彦
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 小中学校における超過勤務の実態について	<p>小学校・中学校現場における超過勤務問題については、これまでもたびたび指摘をし、本市教育委員会も解決へ向けての取り組みを進められてきたが、今日においても改善された実態とは言えないと思う。</p> <p>教育条件整備の中でも最も大切なものは教職員であり、このことは憂慮すべき問題で、早期の改善をめざすべきと考える。</p> <p>本件については昨年も一般質問をしたが、この一年間の取り組みによってどのように前進しているのか、次のとおり伺う。</p> <p>(1) 教育委員会は、入校・退校記録による教職員の長時間労働について、どのように把握されているのか。</p> <p>-----</p> <p>(2) 学校衛生委員会またはこれに準ずる会の開催状況はどうか伺う。また、学校現場の超過勤務実態解消にどれだけの機能を果たしているのか。具体的には入校退校記録をもとにした議論がなされ、全職員に周知されているのか伺う。(「かけ声」「心がけ」にさせない実効ある「業務の見直し」につながっているのか)</p> <p>-----</p> <p>(3) 学校現場において、教職員の実数が十分に増員されていない中、新たな事業も始まっていると聞くが、このことによって超</p>		教育長

順位	6	質問者	宇江田豊彦
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 小中学校における超過勤務の実態について	<p>過勤務問題の解決が困難になっているのではないか伺う。今年度から新たに始まった「学力向上総合対策事業 小中連携」、「心の元気を育てる地域支援事業」などの影響があるのではないか。</p> <p>-----</p> <p>(4) 多忙化の中で、多くの教職員が児童や生徒と直接ゆっくり話をしたり、遊んだりする時間を日々取ることが難しいと聞くが、どのような実態か伺う。</p> <p>-----</p> <p>(5) 「次世代育成支援特定事業主行動計画」について、一定の数値目標が設定されているが、到達状況について伺う。</p> <p>また、どのような方法によって達成状況を調査したのか併せて伺う。</p>		教育長

順位	6	質問者	宇江田豊彦
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. 出産祝い金について	<p>長らく続く経済不況によって、本市においても深刻な実態となっており、子育て世代はとりわけ大変厳しい状況であろうと思う。</p> <p>要保護・準要保護児童生徒の実態を通してみても、年々増え、今日では14%を超え、子育て世帯の苦労を実感するところである。</p> <p>このように困難な中、市独自の子育て支援策として実施をしてきた「出産祝い金」も一定の成果を引き出したと思うが、今日的状況を踏まえ、より効果を上げるために新たな施策への転換を図るべきと考える。</p> <p>この間実施をされた本制度は、毎年6,000万円から7,000万円の支出をしており、例えばこれを保育料等の軽減にあてることによって、より子育て支援につながるのではないかと考える。所見を伺う。</p>		市長

順位	7	質問者	小谷 鶴義
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 平成 25 年度 予算編成につ いて	<p>市長の方針では、平成 25 年度予算編成は通年予算編成と聞かすが、市長は、次の選挙には立候補しないと表明された。それならば、次の市長に予算の編成を託すのが、新市長に対する思いやりではないか。お互いさまの精神からいうとそうではないかと思うが、市長の見解を伺う。</p>		市長
2. グリーンケミ カル(株)補助金 不正受給事件 の解決と、新ス ポンサー企業 の見通しにつ いて	<p>裁判も始まり、市の関係者も出席し、検察官・被告人弁護士等から質問を受けている。厳しい質問もなされていたが、市長としてその報告を受け、どう思われているのか伺う。</p> <p>また、新スポンサー企業はこの時点で希望が持てるのか、進捗状況を伺う。</p>		市長
3. 庄原市超高速 通信網整備計 画について	<p>庄原市情報通信網整備検討委員会の提言を受け、庄原市超高速情報通信網整備計画（案）が示された。検討委員会の委員の中には、財政面の理由を上げられれば検討の余地はなく、不満を感じている委員もいたと聞いている。</p> <p>この整備計画では取り残される地域が多く出ることになるが、全家庭が利用できることを考えるのが公平ではないか。財源が起債となれば、なおさら全家庭の希望を取り入れるのが当然と思うが、考えを伺う。</p>		市長

順位	7	質問者	小谷 鶴義
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
4. 一般競争入札の結果について	<p>本市のホームページで平成24年4月1日から11月1日までの間の入札結果を検索し、旧市町ごとに拾い出してみると、土木関係の入札について、7地域の発注量が大きく違うという結果が出ている。これは、合併時の計画がそうであったのか、今年度が特別なのか。</p> <p>また、業者別に入札結果を比較しても大きな差が出ているが、建設課の事業においてはこれが普通のやり方なのかどうか伺う。</p>		市長
5. 全国和牛能力共進会の結果について	<p>市長は第10回全国和牛能力共進会長崎県大会の成果・結果をどのようにとらえているのか。</p> <p>日本農業新聞では、中国地方は期待した結果が出なかったと酷評している。市の予算は800万円弱と報告され、応援を含め公費が支出されている。次なる宮城県大会等に希望を抱く出品者もいると新聞では報じられている。</p> <p>まずは総括すべきと思うが、行われているか伺う。また、今後の対応策をどのように考えているのか伺う。</p>		市長
6. 選挙開票事務について	<p>三次市においては開票時間の縮減に向けて取り組みをされているが、本市において、選挙管理委員会は調査、検討をしたことがあるのか。</p> <p>また、開票事務の短縮メリットは何か伺う。</p>		選挙管理 委員会 委員長

順位	8	質問者	林 高正
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 庄原市超高速 情報通信網整備 計画について	<p>今回の整備計画は、「庄原市情報通信網整備検討委員会の提言内容をもとに具体的な整備を進めることとする」とされているが、議会に対しては、11月22日開催の議員全員協議会で大まかな説明をされたのみである。しかし、既に長期総合計画に組み込み、新年度予算にも反映される予定だと伺っている。</p> <p>急ごしらの委員会構成で立案した、急ごしらの整備計画を実行に移すということに対し、大いなる不安を覚えるのは私だけではないと思う。</p> <p>そこで、以前示された市内全域を光通信整備した場合の試算（70億円）と今回の整備計画を単純に比較し、どういう要因で整備事業費が大幅減額となったのか。また、本当に民間事業者がテレビ宣伝どおりのサービスを提供できるのか。まずはそのあたりから伺う。</p>		市長

順位	8	質問者	林 高正	項目	質問の小項目及び要旨	答弁を 求める者
2. 庄原市防災行政無線整備計画について	<p>今回の計画で一番驚いたことは、総事業費23億5,480万円の財源内訳が、全額、地域振興基金ということである。この基金は、庄原市の正に虎の子と言っても良いもので、平成27年度からの交付税の減額が目に見えている中で、基金を崩すということは暴挙にも近い行為であると思う。</p> <p>私が申し上げたいのは、基金を崩してまで整備しなければならない防災行政無線整備なのかということである。災害はいつ起こるか分からないから、備えは必要だと執行者は言われるが、防災行政無線は保険ではない。言うならば、実行部隊の補助装置であろうと思う。</p> <p>急場しのぎ的に自主防災組織を立ち上げようとしているが、地域の機動部隊である自主防災組織の確立こそが機器整備よりも先であると思う。いやそうではない、とても素晴らしい魔法の箱だと言われるならば、詳細を示していただきたい。いや、ただの音の出る箱と言われるなら、結構である。</p>		市長			

順位	9	質問者	福山 権二	項目	質問の小項目及び要旨	答弁を 求める者
1. 指定管理者制度について	<p>指定管理者制度の改善について、現在、どのように検討されているのか、次のとおり現状を伺う。</p> <p>(1) 今後の指定管理者制度活用における基本方針は、どのように決定されているのか。</p> <p>(2) 指定管理者制度を活用する際の具体的な基準は、どのように定められているのか。</p> <p>(3) 指定管理者の選定においては、その透明性を確保するため、外部委員を中心に選定組織を設置し、さらに公開を前提として行うべきではないか。</p> <p>(4) 指定管理者制度を活用した際の投資効果は、どのように検証されているのか。</p>				市長	

順位	9	質問者	福山 権二	項目	質問の小項目及び要旨	答弁を 求める者
2. 各種検討委員会について	<p>行政による企画の有効性を図るため、市民参加の各種検討委員会が、再三、組織される傾向にあるが、この意義について次のとおり伺う。</p> <p>(1) 各種検討委員会（法令規定外）を発足させる際、委員はどのような基準で選出されているのか。</p> <p>(2) 検討委員には各種団体代表が選出されているが、委員は、委嘱された内容を自身の選出団体の中で議論する義務があるのか。</p> <p>(3) 検討委員会を組織する際の基準は、どのように定められているのか。</p> <p>(4) 各種検討委員会の協議・結論が、民意をどの程度反映していると判断しているのか。</p>		市長			
3. 地籍調査について	<p>(1) 地籍調査係を設置して1年が経過しようとしているが、調査実績はどの程度か伺う。</p> <p>(2) 地籍調査により得られた結果は行政活動における基本的な情報の一つであり、地籍調査課を設置して調査を早めるべきだと考えるが、市長の見解を伺う。</p>		市長			